

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

内容
<p>コロナ対策として、マスクやマウスガードを着用します。手指消毒を徹底します。また、旅の生活においても、劇団独自の感染予防対策ガイドラインを作成し、ソーシャルディスタンスの確保を心がけ、出来るだけ公演班での会話は控え、行動記録表を取り、食事を買う為など立ち寄った店舗等についての記録をするなど、感染予防対策を徹底します。ワークショップの内容に変更はありませんが、換気休憩を設ける場合があります。</p> <p>基本的には舞台に登場していただく生徒さん（約10名）を対象としたワークショップを実施します。人数によっては出演しない生徒さんもワークショップに参加していただくことが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">●シアターゲーム等でウォーミングアップ。声を出して表現すること、体を使って表現すること、グループで話し合っ作品を一緒に創ることを体験してもらいます。●高校生たちが体験した動物たちとの触れ合いや、肥料にして再生するために“動物の骨を砕く”という事がどんな事なのか、どんな気持ちになるのかをディスカッションを通して想像・体験してもらいます。

タイムスケジュール（標準）
ウォーミングアップのシアターゲーム（10分）/動物に関連するシアターゲーム（15分）/動物に関連するグループトーク（20～30分）/換気休憩（10分）/シチュエーションを伝え、グループトークを経た上でピクチャー〈静止画〉作り、発表（20～30分）/全体で動物の殺処分についてのトーク・出演するシーンの説明（15分）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
俳優 6名

学校における事前指導
ワークショップに参加する児童・生徒さんに「飼っている、または飼ったことのあるペットの写真か絵」をワークショップ当日に持ってきてもらうように事前指導をお願いしています。飼った経験がない人は「これから飼いたいと思っている生き物、想像上の生き物や絶滅した生き物」でも可。名札の代わりに「自分が呼ばれたい名前」をガムテープ等にマジックで人から見えるように書いて、洋服に貼った状態での集合をお願いしています。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

演目
「いのちの花」 ※公演中の出演者以外はマスクを常時着用します。公演中は出演者がマスクを着用しないため、ステージ前面から客席最前列まで3m空けて着席してもらうよう配置します。手指消毒を徹底します。また、旅の生活においても、劇団独自の感染予防対策ガイドラインを作成し、ソーシャルディスタンスの確保を心がけ、出来るだけ公演班での会話は控え、行動記録表を取り、食事を買う為など立ち寄った店舗等についての記録をするなど、感染予防対策を徹底します。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者：10名 スタッフ：11名 合計21名

タイムスケジュール（標準）
8時～13時会場仕込み※11時頃出演児童・生徒のリハーサル（4限目・授業1コマ分） 13:15 開場/13:30 開演/15:10 終演・退場 ※希望により上演途中で10分間の換気休憩を設けます。その場合、終演時間が15:20頃になります。 15:30～16:45 撤去 17時退出

実施校への協力依頼人員
会場の条件によっては、公演当日までにカーテンのない窓を（手の届く範囲で）段ボール等で塞ぐ作業を依頼する場合があります。ピアノがステージ上にあり、袖中に納まらない場合は劇団員と一緒に先生方の手を借りてステージ下におろす作業を依頼する場合があります。会場の床にシートを敷きたいと希望された場合は仕込みの前日までに先生方で敷いていただくようお願いしています。

演目解説

青森県立三本木農業高校。

動物科学科に入学したマナミたちは、糞の匂いにやられながらも家畜たちの世話に励んでいる。実習では飼育しているニワトリを解体、調理し自分たちで食べる。「いただきます」という言葉の意味を改めて考える。

そして入学から1年がすぎた3月中旬、東日本大震災がおきる。

2年生になったある日、見学に訪れた動物愛護センターで、殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る。声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」を再生させようと立ち上がった。

実話をもとに舞台化。疾走する5人の女子高生たちの物語。

「いのちってなんだろう？」

この舞台が、動物殺処分や動物のいのちだけでなく、自分のいのち、ひとのいのち、生きとし生けるものの「いのち」について考えるきっかけになればと思います。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

公演の終盤、高校生たちが殺処分された動物たちの骨を肥料にして育てた「いのちの花」を受け取ってくれるよう客席にむけて話します。そのシーンで出演する児童生徒たち(※約10名)は客席から舞台上に上がり、花を受け取ります。その際に事前ワークショップやリハーサルを経て、「自分だったら高校生たちにどんな言葉をかけるか?」ということを考えて上でセリフにして言ってもらいます。このシーンの終わりで自分の席にもどり、続きを観劇してもらいます。※舞台上に人が密集しないよう出演する児童生徒さんたちの人数を約10名に限らせていただきます。その代わりにワークショップには参加したが出演はしない児童生徒さんたちにはリハーサル時に花を受け取る写真を撮影し、このシーンでプロジェクターで舞台セットに投影します。小道具の花は必ず事前事後に消毒します。

児童生徒とのふれあい

公演当日のリハーサルの中で(リハ参加者はワークショップに参加した児童生徒さんに限らせていただきます)、ウォーミングアップのシアターゲームを行いワークショップに来ていない俳優たちとも交流します。またバックステージツアーを行い、舞台セットや照明・音響機材の説明をします。希望により、終演後に出演者1名と感想などを話す機会や搬出手伝いをしながらの俳優・スタッフとの交流の機会を設けます。※必ずマスクやマウスガードを着用して実施します。バックステージツアーの事前事後に小道具、大道具、機材の消毒を行います。また通常は、公演終盤に出演する児童生徒たちが客席に戻るタイミングで、俳優たちも一緒に客席に下り、客席の児童生徒たちにも花を受け取ってもらうよう1人1人に声をかけていくシーンがありますが演出を変更し、俳優たちが客席に下りる演出は行いません。